

田尻だより

平成 20 年

9月 号

Vol. 66

次回の田尻便りは
10月1日発行予定!

地震の次は豪雨です。

6、7月と地震が続い

たかと思うと、8月は

異常なまでの集中豪雨。

各地でも大きな被害が

連日報道されています。

この豪雨の影響で、

当初は豊作と見込まれ

ていたお米の作柄も怪

しくなり、収穫開始も

予想より遅れそうで、

不安を感じる毎日です。

生き物調査には、可能な限り、子供たちを連れて行きますが、他のスタッフや農家の人と一緒にしています。私自身は指導や解説に忙しく、ほかほか我が子の相手が出来ません。



「農業のあり方」

これからの農業には

2通りのあり方がある

と思います。ひとつは

産業としての「農」、

もう一つは生き方とし

ての「農」です。

小野寺家は前者です。

自然と共生した農業と

産地の自立を実現する

ために、農家の有志で

雁音農産を作り、協力

し合いながらこだわり

のお米を作って消費者

に届けています。

一方私の実家は後者

いたりもしています。

大きな農業は産業と

して都市の生活を支え、

小さな農業は癒しの空

間を都市生活者に与え

ています。しかし人と

自然とのあり方を問う

という意味では同じで

あり、それこそが農業

の本質なのでしよう。

でも、知らぬ間に

トボの種名を覚えて

いたりするので、

感動を越えて尊敬

すら覚えてしまいます。



嫁日記

小野寺家に来て7年目、はずかしながら今では色々な取材を受けるようになりました。9月の末には、東京は永田町の議員会館で講和をすることにもなり、いやはや農家の嫁もずいぶん出世したものです(笑)。

笑い事のように書きました

が、食品の偽装や毒物の混入、低迷する自給率、逼迫する環境対策などを背景に、農業の果たす役割は加重となる一方で、高齢化、減反、価格の低迷などで、農家はどんどん衰退しています。

「元気な農家は元気な嫁から」というのも笑い事ではない日本。私に出来ることを、精一杯尽くす限りです。

未 暦 ~こめごよみ~

- 8月1日~ 草刈りをしました
13日
- 8月5日 出穂始め
- 8月3日 田んぼの生き物調査を
5日 しました
10日
- 8月13日 穂揃い

豪雨と長雨のため、早まっていた生育が停滞しています。町内では長雨によってイモチ病が発生した田んぼも見られます。

絵と文 / 小野寺ひかる